

両頭針付溶解剤
 日本薬局方 生理食塩液
 処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

生食溶解液キットH

Isotonic Sodium Chloride Solution Kit H

正しくお使いいただくために



50mL
縮小50%



バイアル装着例



100mL
縮小50%



「効能・効果」、「用法・用量」を含む注意事項等情報 等の詳細は、*Drug Information* をご参照ください。

製造販売元
 (資料請求先)

ニプロ株式会社

大阪府摂津市千里丘新町3番26号
<https://www.nipro.co.jp/>

生食溶解液キットHを正しくお使いいただくために

1 シール開封

プラスチックボトルのカプセル部を持って、カプセル上部のシールをはがす。

カプセル部



以下の溶解操作はカプセル部を持って行ってください。

ボトル部を持ったり押さえたりしないでください。ボトル内のエアが抜けるおそれがあります。

2 薬剤バイアル装着

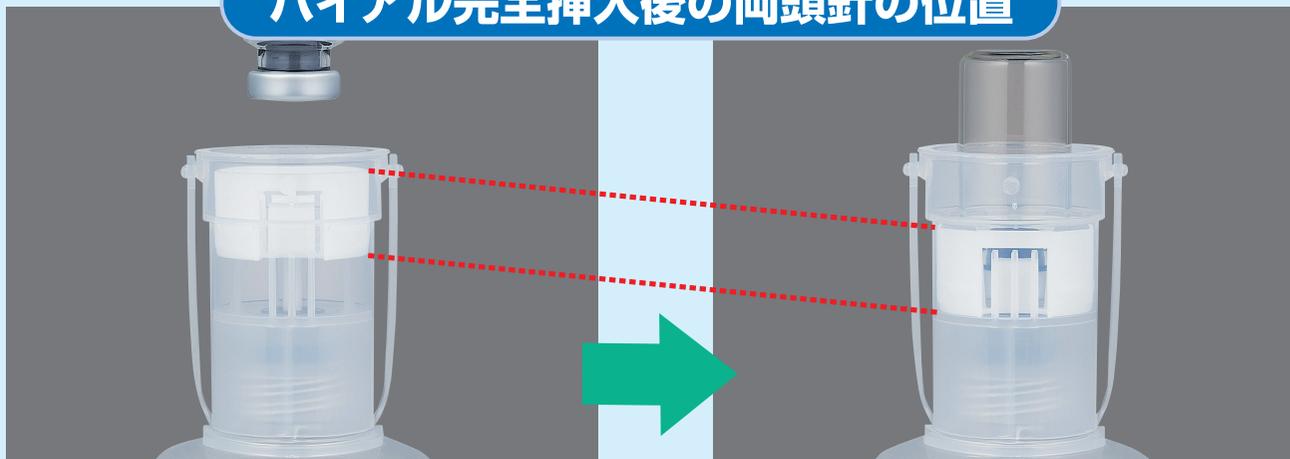
＜不具合発生を防止するために＞

- | | | |
|----------------|---|---|
| ○ 本剤のカプセル部を持ち | → | × ボトル部を持つとボトル内のエア抜けのおそれあり |
| ○ 斜めに傾けて | → | × 正立状態でのバイアル装着は薬剤粉末による針穴詰まりのおそれあり |
| ○ バイアル挿入完了位置まで | → | × 完了位置まで下降させないと液漏れのおそれあり |
| ○ まっすぐいっきに | → | × バイアルゴム栓に直角に両頭針を刺さないと両頭針の曲がり、液漏れ、ゴム栓脱落のおそれあり |

- ① 本剤のカプセル部を持って斜めに傾ける。
- ② 薬剤バイアルを両頭針にあてる。
- ③ 薬剤バイアル挿入完了位置まで、まっすぐいっきに刺す。



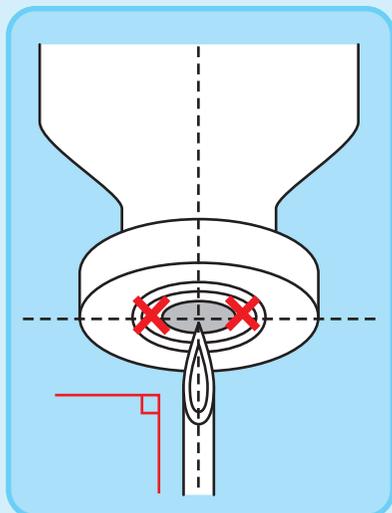
バイアル完全挿入後の両頭針の位置



薬剤バイアル挿入完了位置まで両頭針を下降させること。

注意 両頭針を完了位置まで下降させないと薬剤バイアルの固定が不十分となり、液漏れ等を起こすことがあります。

〈両頭針の刺通位置〉



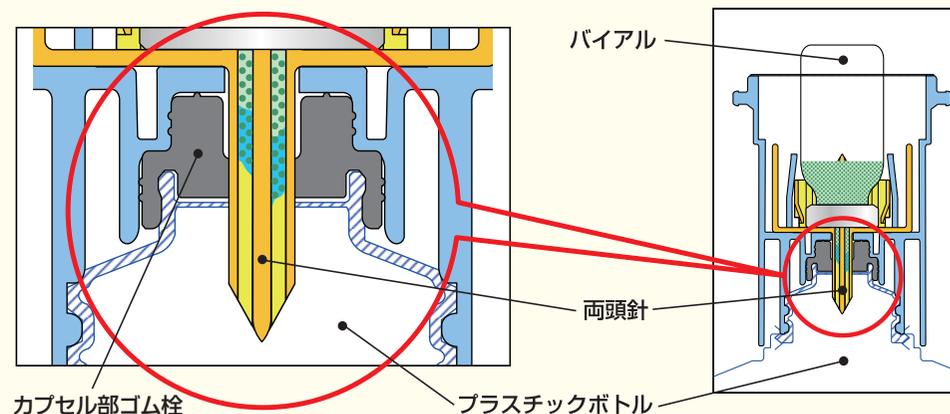
両頭針を薬剤バイアルのゴム栓ディンプルの中心部に直角にあてがうこと。

注意 両頭針をゴム栓面に対して斜めに刺したり、ゴム栓の周辺部に刺すと、両頭針が曲がったり、装着部から液漏れしたり、ゴム栓が瓶内に脱落するおそれがあります。

注意 一度両頭針に刺したバイアルは再び刺さないでください。コアリングの可能性が高まるおそれがあります。

注意 粉末薬剤充てんバイアル

本剤を正立した状態で粉末が充てんされた薬剤バイアルを装着すると、粉末が両頭針の針穴に詰まる等、溶解操作に支障をきたすことがあります。



バイアル連通後は速やかに溶解操作を行ってください。

3 溶 解

プラスチックボトルを上にして、バイアルに1/2程度の溶解液を注入して軽く振り、バイアル内の薬剤を完全に溶解する。

プラスチックボトルの溶解液がバイアルに注入しにくい場合はポンピング*を行う。



**バイアル内を
溶解液で
一杯にしない**



溶解液を薬剤バイアル内に注入する際には、1/2程度にとどめてください。

薬剤バイアル内に一杯になるまで注入すると、溶解液がボトル側に戻りにくくなります。

溶解液が戻らない場合は、ポンピング*を行うか、カプセル部に軽く振動を与えてください。

*ポンピング：プラスチックボトル中央部を指で「押す・緩める」操作を繰り返す。

4 溶解

プラスチックボトルを下にして、バイアル内の薬液をプラスチックボトルに戻す。

バイアル内の薬液がプラスチックボトルに戻りにくい場合は、ポンピング*を行う。

注意 薬剤溶解後、バイアル内に薬液が残っていないことを確認してください。



5 キャップ開栓

プラスチックボトル下部の栓体部を持ち、キャップを取り外し、ゴム栓を消毒する。

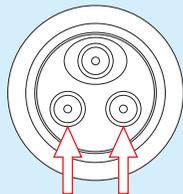


溶解時に炭酸ガスが発生する一部薬剤で、プラスチックボトル内の圧力が上昇する場合がありますので、ご注意ください。

6 栓体への針の刺通

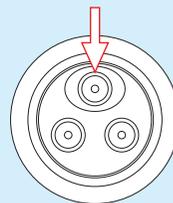
アンプル製剤等を混注する場合は注射針をゴム栓の楕円で囲まれていない○印部にまっすぐゆっくり刺すこと。

混注用の注射針を刺す位置
(楕円で囲まれていない○印部)



輸液セットの針を刺す場合はゴム栓の楕円で囲まれた○印部にまっすぐゆっくり刺すこと。

輸液セットの針を刺す位置
(楕円で囲まれた○印部)



注意 斜めに刺すと、プラスチックボトルの首部の内壁を削り、削り取られたプラスチック片が薬液中に混入したり、また、プラスチックボトルを貫通し、液漏れを起こすことがあります。

折りたたみ廃棄例



投与時の注意 ボトル液面と穿刺部の高低差が小さいと、滴下不良や血液の逆流の原因となるため、高低差が80~100cmとなるよう調整をお願いします。

生食溶解液キットH

Isotonic Sodium Chloride Solution Kit H

注意事項等情報等の電子添文の改訂に十分ご注意ください。

規制区分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）		50mL	100mL
貯法	室温保存	承認番号	20600AMZ00777	20600AMZ00777
有効期間	3年	承認年月	1994年3月	1994年3月
日本標準商品分類番	873311	薬価収載年月	1995年7月	1994年6月
		販売開始年月	1995年8月	1994年8月

3. 組成・性状	3.1 組成		14. 適用上の注意	14.1.3 輸液セットのびん針は、ゴム栓中央部を避けて周囲の刻印部（楕円で囲まれた○印）に垂直にゆっくりと刺すこと。斜めに刺した場合、削り片の混入及び液漏れの原因となるおそれがある。また、びん針は同一箇所には繰り返して刺さないこと。 14.2 薬剤調製時の注意 14.2.1 薬剤を配合する際には、配合変化に注意すること。 14.2.2 本品は、溶解希釈剤として容量及び生理食塩液が適している注射剤に使用すること。 14.2.3 本剤のカプセル部を持って、カプセル上部のシールを開封すること。開封後は、直ちに使用すること。 14.2.4 薬剤バイアルをカプセル部に装着する場合、本剤を斜めに持って傾け、薬剤バイアルのゴム栓の中心に両頭針を直角にあてがった後、バイアル挿入完了位置まで垂直にいきいきに刺すこと。本剤を正立した状態で粉末が充てんされた薬剤バイアルを装着すると、粉末が両頭針の針穴に詰まるなど溶解操作に支障をきたすことがある。 14.2.5 調製操作する場合には、カプセル部等の硬い部分を持って操作し、プラスチックボトル部を持ったり、押さえたりしないこと。 14.2.6 本剤に薬剤バイアルを溶解した後、更にアンプル製剤等、他の注射剤を混注する場合には、プラスチックボトル下部の栓体部キャップをとり、注射針をゴム栓の周囲の刻印部（楕円で囲まれていない○印）に垂直にゆっくりと刺すこと。また、針は同一箇所には繰り返して刺さないこと。 14.3 薬剤投与時の注意 14.3.1 静脈内に投与すること。 14.3.2 容器の目盛りは目安として使用すること。 14.3.3 通気針は不要であるが、やむをえず通気針を使用する場合には、通気針をゴム栓の楕円で囲まれていない○印部に垂直にゆっくり刺すこと。また、薬液量が少なくなると排出速度が低下してくるので、滴下速度に十分注意すること。 14.3.4 残液は使用しないこと。
	販売名	有効成分		
4. 効能・効果	注射剤の溶解希釈剤		19. 有効成分に関する理化学的知見	一般名：塩化ナトリウム（Sodium Chloride） 分子式：NaCl 分子量：58.44 性状：・無色又は白色の結晶又は結晶性の粉末である。 ・水に溶けやすく、エタノール（99.5）にほとんど溶けない。
	6. 用法・用量	注射用医薬品の溶解・希釈に用いる。		
9. 特定の背景を有する患者に関する注意	9.1 合併症・既往歴等のある患者 9.1.1 心臓、循環器系機能障害のある患者 循環血液量の増加により、症状が悪化するおそれがある。 9.2 腎機能障害患者 水分、塩化ナトリウムの過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。 9.8 高齢者 投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。		22. 包装	50mL×10本 100mL×10本
	11. 副作用	次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。 11.2 その他の副作用 頻度不明 大量・急速投与 血清電解質異常、うっ血性心不全、浮腫、アシドーシス		
14. 適用上の注意	14.1 全般的な注意 14.1.1 使用時には、感染に対する配慮をすること。 14.1.2 本剤カプセル部からの薬剤バイアル調製については単回調製を原則とする。複数の薬剤バイアルを連続調製する場合には、汚染の可能性やバイアルのゴム栓の瓶内への脱落等の可能性が高まるおそれがあるため、溶解操作方法及び取扱い上の注意に十分留意すること。			

詳細は電子化された添付文書（電子添文）をご参照ください。

【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】ニプロ株式会社 医薬品情報室

〒566-8510 大阪府摂津市千里丘新町3番26号 ☎0120-226-898 FAX 050-3535-8939

製造販売元 ニプロ株式会社

大阪府摂津市千里丘新町3番26号

電子添文確認用



(01)14987190104714

D-1

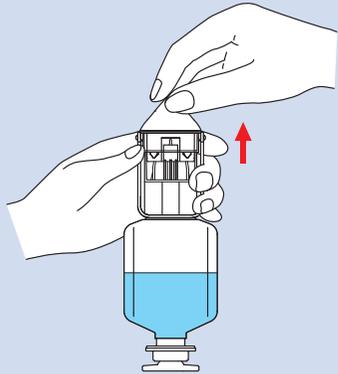
2023年10月作成 (TS)

KH(生食)正しく601(2310)

[審2310056593]

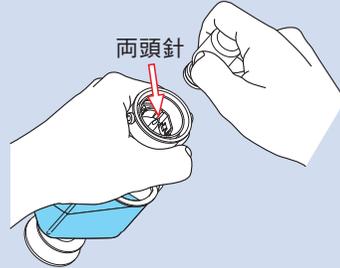
溶解操作方法

1 シール開封



プラスチックボトルのカプセル部を持って、カプセル上部のシールをはがす。

2 薬剤バイアル装着



- ①本剤のカプセル部を持って斜めに傾ける。
- ②薬剤バイアルを両頭針にあてる。
- ③薬剤バイアル挿入完了位置まで、まっすぐいっしょに刺す。

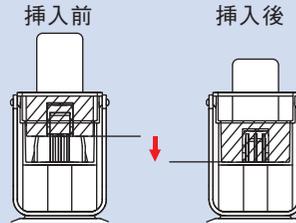
注意 本剤を正立した状態で粉末が充てんされた薬剤バイアルを装着すると、粉末が両頭針の針穴に詰まる等、溶解操作に支障をきたすことがある。

<両頭針の刺通位置>



両頭針を薬剤バイアルのゴム栓ディンプルの中心部に直角にあてがうこと。
注意 両頭針をゴム栓面に対して斜めに刺したり、ゴム栓の周辺部に刺すと、両頭針が曲がったり、装着部から液漏れしたり、ゴム栓が瓶内に脱落するおそれがある。

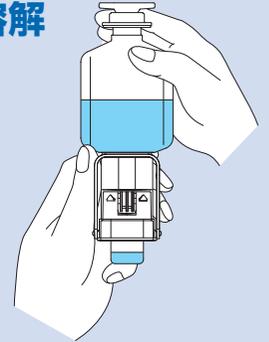
<バイアル完全挿入後の両頭針の位置>



薬剤バイアル挿入完了位置まで両頭針を下降させること。

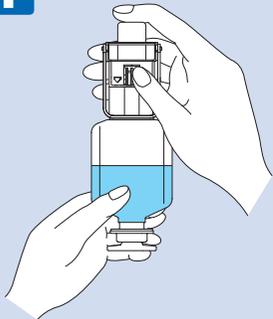
注意 両頭針を完了位置まで下降させないと薬剤バイアルの固定が不十分となり、液漏れ等を起こすことがある。

3 溶解



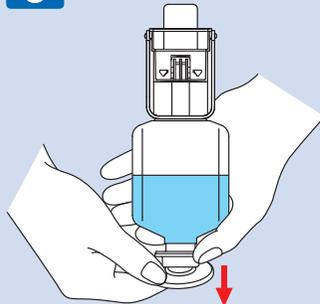
プラスチックボトルを上にして、バイアルに1/2程度の溶解液を注入して軽く振り、バイアル内の薬剤を完全に溶解する。プラスチックボトルの溶解液がバイアルに注入しにくい場合はポンピング*を行う。

4 溶解



プラスチックボトルを下にして、バイアル内の薬液をプラスチックボトルに戻す。バイアル内の薬液がプラスチックボトルに戻りにくい場合は、ポンピング*を行う。

5 キャップ開栓



プラスチックボトル下部の栓体部を持ち、キャップを取り外し、ゴム栓を消毒する。

6 栓体への針の刺通

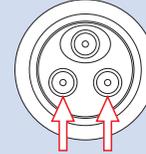


アンプル製剤等を混注する場合は注射針をゴム栓の楕円で囲まれていない○印部にまっすぐゆっくり刺すこと。輸液セットの針を刺す場合はゴム栓の楕円で囲まれた○印部にまっすぐゆっくり刺すこと。

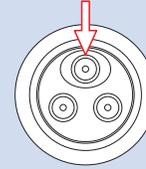
注意 斜めに刺すと、プラスチックボトルの首部の内壁を削り、削り取られたプラスチック片が薬液中に混入したり、また、プラスチックボトルを貫通し、液漏れを起こすことがある。

栓体部の刺通位置

混注用の注射針を刺す位置
(楕円で囲まれていない○印部)

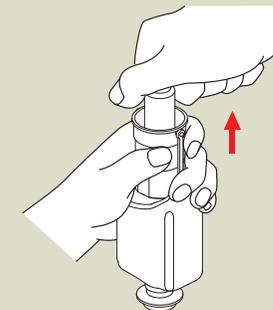


輸液セットの針を刺す位置
(楕円で囲まれた○印部)



分別廃棄方法

カプセル部からバイアルを取り外し、分別する。



バイアル取り外し時の注意

- カプセル部を持って行うこと。
- バイアルをいっしょに取り外すと、薬液が飛散するおそれがあるので注意すること。

カプセル部を持ち、バイアルをひねらずにまっすぐ抜く。

*ポンピング：プラスチックボトル中央部を指で「押す・緩める」操作を繰り返す。

溶解時に炭酸ガスが発生する一部薬剤で、プラスチックボトル内の圧力が上昇する場合がありますので、ご注意ください。